

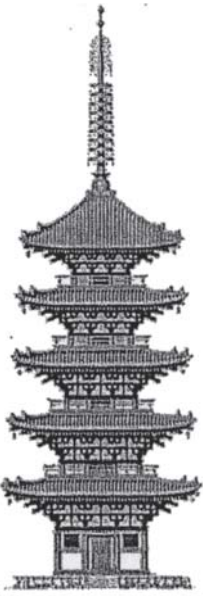
弘法さんかわら版

発行編集部

大塚耕平事務所

☎052-757-1955

Kouhei@oh-kouhei.org



皆さん、こんにちわ。日本
 皆さん、こんにちわ。日本
 仏教と聖徳太子の生涯がテ
 マの今年のかかわら版。今月
 聖徳太子の仏教を語る時に欠
 かせない三経講経(こうきよ
 う)と三経義疏(ぎしよ)に
 ついてです。

★三経講経

推古天皇と摂政皇太子(厩
 戸王子)による治世が安定し
 てきた六〇五年(太子三十四
 歳)、天皇は飛鳥大仏を建立。
 一方、太子は完成した斑鳩宮
 に移りました。この年には、孟
 蘭盆会(うらぼんえ)も始ま
 りました。

六〇六年(同三十五歳)、天
 皇は太子に講経を行うことを
 求めます。つまり、仏教(経)
 の講義です。

最初に説いたのは勝鬘経(し
 ょうまんぎょう)、次は法華経
 です。

このふたつは女性救済を教
 えの主題に含む経です。天皇
 が女性であり、尼僧の数が増
 えていたことに配慮した太子
 の選択と言われています。

後年、在家仏教の大切さを
 説く維摩経も講義しました。こ
 の三つを総称して三経講経と
 言います。

★三経義疏

太子は、講経と並行して解
 説書の編纂も行いました。

勝鬘経義疏は六一一年(同
 四十歳)、維摩経義疏は六一
 三年(同四十二歳)、法華経
 義疏は六一五年(同四十四歳)
 に完成しました。

現在、勝鬘経義疏と維摩経
 義疏は鎌倉時代の写本(刊本)
 が残されているだけです。法
 華経義疏については太子直筆
 の草稿本が皇室御物(ぎよぶ
 つ)として引き継がれている
 そうです。



法華義疏

★百済と高句麗

初期の仏教経典や法具の多
 くは、蘇我氏とつながりの深
 い百済から持ち込まれていま
 した。

慧聡、観勒など、百済は積
 極的に高僧を派遣し、倭国と
 の関係強化に腐心。
 やがて、高句麗も倭国仏教
 に影響を与えようとしています。朝
 鮮半島での政治的力学を意識
 して倭国との関係づくりを凶
 るためです。

倭国初の出家者である善信
 尼の戒師を務めた惠便、太子の
 師となった慧慈も高句麗僧。

六一〇年(同三十九歳)に
 は儒教や工芸、寺院建築に秀
 じた曇徴、法定が来朝するな
 ど、高句麗は百済を凌駕する
 勢いで倭国に高僧や仏師、寺
 大工等を送ってきました。

★随の滅亡

太子の治世は、内政、外交
 のいずれにおいても、中国大
 陸での随の興亡、朝鮮半島の
 政治力学と密接に関係してい
 ます。

随の始祖、文帝(楊堅)を
 継いだ煬帝(ようたい)は、華
 北・江南を結ぶ大運河を建設
 したり、度重なる高句麗遠征
 (麗随戦争)を行い、民衆は

重税や戦役に苦しみました。
 六二三年(同四十二歳)、楊
 玄感の反乱を契機に国は乱れ、
 六一八年(同四十七歳)、煬
 帝は近衛兵に暗殺されます。

重臣の李淵は煬帝の孫の楊
 侑を幼帝として擁立。楊侑か
 ら禅譲を受けて自ら帝位につ
 き、唐を立国。李淵は唐の高
 祖とな
 り、隋
 は滅亡
 しまし
 た。



李淵(唐の高祖)

その
 年の春、
 太子は
 隋の滅
 亡を予
 知したと
 伝えら
 れてい
 ます。

中国大陸や朝鮮半島の情報に
 通じた太子が、情勢を把握し
 ていた証でしょう。

「同年秋、太子は自分の最
 後が近いことを悟り、妃の膳
 太郎女(かしわでのあおいつら
 め)に六代前までの輪廻(りん
 ね)を語りました。

★太子伝説

太子には奇瑞(きざい)伝
 説の類が数多く伝えられてい
 ます。来月は太子の最期と太
 子伝説についてお伝えします。
 乞ご期待。

